

「柏崎刈羽原発再稼働を許すな」と1300人結集 強い雨風の中、柏崎海浜公園で「なくそテ原発柏崎大集会」



に)してほしくない。再稼働反対、廃炉の声をあげよう」と訴えました。

その後、福島原発告訴団の武藤類子团长さん(写真上)がメインスピーチをしました。武藤さんは、「原発事故を経験したものと二度と事故は起こしてほしくない。除染作業が行われているが、事故の後も利権構造は変わらない。原発事故はどうしたらなくせるか。まずは諦めないこと。福島事故原因をきちんと究明することが大事だ。次に繋がること。原発をなくすために立場の違いを越えて、ゆるやかに繋がる。そして3つ

目に、一人ひとりがどうしたら原発をなくせるか、真剣に考えるが大事だ。連帯して頑張りますよ」と訴えました。

この日はアイドルグループ、制服向上委員会(写真右下)が反原発ソングを歌い、「再稼働を止めよう」「安倍政権を倒そう」とシュプレヒコールを行いました。元気で、内容のあるスピーチにも惚れ惚れしました。

来年は柏崎刈羽原発を人間の鎖で囲もうという提案がされました。3600人からの参加者が集まらないと困めないとか。頑張らなければなりません。

泉田知事、「実効性ある避難計画」づくりで強い姿勢

5日に行われた県議会一般質問で泉田知事は原発事故に関する避難計画について問われ、「課題解決の前提として、法制度など権限を持つ国でなければ対応できない課題があ



【シロバナヤマジノホトトギス】ユリ科の多年草。漢字で「白花山路の杜鵑草」と書きます。よく目にするホトトギスの花は白色で紫色の斑点が入りますが、これは真っ白です。吉川区内のある寺院にて撮りました。

り、これらの解決なくしては、被ばくを避ける避難計画はできない」と答えました。これは日本共産党の渋谷明治議員に答えたものです。

渋谷議員は、「避難計画策定にあたっては、きめ細かい住民避難先の指定、他県などより広域の避難先との連携、避難経路や交通手段の確保といった多岐にわたる課題が考えられる。知事は『実効性ある避難計画』策定への支援をどう考えるか」と質問しました。知事答弁を受けて防災局長は、「国でなければ解決できない課題として、高線量下で防災業務に従事する者に関する法整備」「原子力災害と自然災害に関する法体系の一体的見直し」「安定ヨウ素剤の配布及び服用体制の整備」など5項目をあげました。



知事答弁は被ばくを避けるためには国レベルでの課題解決が欠かせないと強い姿勢を示した。ものとして大きく評価できるものです。(写真は柏崎港から見た原発)

昨年が続いて「なくそテ原発柏崎大集会」が柏崎市海浜公園のドームで行われました。悪天候の中、県内各地から、そして長野からも次々と集まり、1300人ほどにふくらみました。

集会では植木史将実行委員長が「私たちは3・11フクシマを忘れてはならない。いままなお避難生活を余儀なくされている人たちがいることを意識しながら(再稼働を許さないという)目的の実現めざしてがんばろう」と挨拶した後、県内の4人の方が原発への思いを語りました。

そのうちの一人は福島からの避難者、高橋真由美さんです。高橋さんは、時どき涙を浮かべながら、「3・11から家族の生活は一変した。放射能という見えない恐怖が私たちを襲った。夫は汚染されている福島で働き、私と子どもたちは新潟で暮らすという辛い生活が3年続いた。こういう思いは(若い人たち

はしづめ法一の活動レポート

No.1727 2015.10.18

発行編集 日本共産党前上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628
通じないときは 090-5392-1961
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
URL http://www.hose1.jp/



ブログ「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第三七六回

初孫誕生

その日は急にやってきました。秋も深まり、ツタや山芋の葉に続いてヤマウルシの葉も赤くなりだしてきた一〇月のある日でした。予定日より一か月ほど早かったので、何となく信じられない思いでした。

次男の連れ合いの出産が近いとの知らせがあったのは、その日の午前のことです。ちようど、市内の病院での母の定期検査を終えて、家に向かう途中でした。携帯電話が鳴って切れたので、車を止めて確認すると次男からです。すぐに電話をかけました。赤ちゃんが生まれそうだから、これから金沢を出て病院に向かう、午後二時頃には着くだろうとの連絡でした。その後、妻や長女からも電話やメールがありましたので、ふたりのところにも電話をしたのでしよう。

その日、情報は一転、二転しました。夕方、病院にいる次男から届いたメールでは、「明日の朝になるかも知れない」との連絡でしたので、私は当初の予定通り、夜の会議に出ていました。でも、場合によってはさらに早まるかも知れないと思い、会議の主催者の方には途中で抜けることになるかも知れないと伝えておきました。

予感あたりりました。午後八時四〇分、妻からメールにて「八時一七分、生まれました」と連絡が入ったのです。ちようど、私が発言しようと思っていた時でしたので、発言してから病院に向かうことにしたのですが、開口一番、「おーっ」という声上がり、拍手をもらいました。

大急ぎで病院へ着くと、妻などが分娩室に入ったばかりでした。みんな、赤ちゃんとの初めての対面です。なんとなく緊張しましたね。私の目の前にいる生まれたばかりの赤ちゃん、人形さんのような感じですよ。白っぽくて、小さくて、初々しくて、どう言ったらいいのでしょうか、ものすごくかわいいのです。

じいっと見ていたら、右足の指を動かしました。次いで左足の指も……。それだけでもかわいらしいと思っていたら、今度は足で何かをけるような元気な動きをしました。「元気だねえ」、「これじゃ、おかあさんのお腹の中にいたときはお母さんも痛かっただろうね」という声が出ました。そして赤ちゃんは急に、わっと泣き出したのです。生まれた直後も泣いたということでしたので、これが二度目でした。偶然でしょうが、泣き声を聞きたいと思っていた私たちの気持ちにこたえてくれたのです。

分娩室にいる時間は五分くらいだったと思いますが、けっして短くは感じませんでした。赤ちゃんは二四〇〇弱、小さかったこともあって、分娩室に入ってから五分くらいに間にヒューッと出てきたそうです。酸素の量などを検査する機器が「ポッ、ポッ、ポッ」と音を出しているなかで、次男はカメラで撮影、私はスマートフォン（多機能携帯電話）で動画を撮らせてもらいました。分娩室では、「爪の形は誰に似ているだろうね」「お父さんだろう」「鼻はお母さん似かな。顔は整っていて、かわいいね」などといった会話がしばらく続きました。

家に戻ったのは夜一〇時前後でした。母はまだ眠ってはいませんが、すでに布団の中に入っていました。「赤ちゃん、生まれたよ」と言うと、「そいがてがな」と言いました。長女から情報が入っていたようです。そして、私は母のために撮ってきた赤ちゃんの動画を見せました。母はスマートフォンの画面を覗き込み、「お父さんに似ているなあ、良かった」そう言って、フフフと笑いました。

イスに腰かけてじよんのびのところが増える…敬老会

市内各地で敬老会が行われています。市内での敬老会の取組は行政区単位で行われているところもあるれば、町内会ごとに行われているところ

もあります。会場も大きなホールを使っているところ、集会場の大会議室を使っているところなど様々です。そして敬老会の中身はどこでも参加者のみなさんから喜んでもらえるよう工夫されています。

こうしたなかで敬老会ではみんながイスにすわって楽しむことができる会場が増えてきました。これは敬老会参加の対象年齢が75歳以上となっていること



も影響を与えています。今年、初めてイスが使われるところでは、「足や腰が悪いすけ、助かる。じよんのびだ」という声が上がっていました。写真は8日の吉川区敬老会です。

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	10月7日(水)	10月14日(水)
上越南消防署	0.043	0.050
上越北消防署	0.047	0.047
新井消防署	0.047	0.047
頸北消防署	0.057	0.047
頸南消防署	0.047	0.047
東頸消防署	0.046	0.043
高士分遣所	0.043	0.047
名立分遣所	0.053	0.053



400種の花にうっとり

10日、高田の花ロードをみてきました。毎回楽しみにしているポイントのひとつは本町5丁目の内山さんの屋上ガーデン。約400種の花が屋上で栽培されています。この日は私だけでなく、大勢の人が階段を上り、屋上に咲く花を楽しんでいました。